

事 務 連 絡
平成 30 年 2 月 8 日

各都道府県建設業協会 事務局 御中

一般社団法人 全国建設業協会
事 業 部

公益社団法人日本河川協会について（情報提供）

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は本会の活動に格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして、公益社団法人 日本河川協会より、新たな会員サービス開始予定および法人会員入会のご案内がありましたのでご紹介いたします。

なお、同協会より貴協会へ別途同様の案内文書が発送されるとのことです。

つきましては、案内文書が届きましたら、貴会会員企業の皆様へご案内いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

（ご参考）

公益社団法人日本河川協会ホームページ <http://www.japanriver.or.jp/>

（添付資料）

- ・公益社団法人日本河川協会について
- ・建設関係の法人の皆様へ（日本河川協会 法人会員入会のご案内）

【担当】 事業部 大濱 TEL : 03-3551-9396 FAX : 03-3555-3218 E-mail:jigyo@zenken-net.or.jp
--

建設関係の法人の皆様へ
(日本河川協会 法人会員入会のご案内)

日本河川協会は、昭和15年設立の公益社団法人で、河川に関する情報の交流や知識の普及、河川整備と諸活動の支援などにより、公共の福祉の増進を図ることを目的とした活動を行っています。

当協会の活動は、一種正会員（地方公共団体等）約140団体、二種正会員（個人）約2,200人、三種正会員（建設会社等の法人及び団体）約300法人の皆様を支えられています。（平成30年1月現在）

昨今、洪水等の自然災害が多発するわが国において防災・減災対策の重要性がクローズアップされています。そのような状況の中、当協会といたしましても、河川の工事、調査、維持管理等を通じて防災・減災に大きな役割を果たしている三種正会員の皆様を対象に、その社会的評価のさらなる向上に向けた取組みを強化することとしました。

具体的には、今後、下記①～⑤の新たな会員サービスを通じて、法人会員様を支援する活動を強化してまいります。未加入の法人様におかれましては、活動趣旨にご賛同いただき、入会をご検討いただければ幸いです。

【月刊誌「河川」で】

- ① 法人会員様の投稿により、所属される職員を 「うちの川ファン」 のコーナー（3月号から新設予定）でご紹介させていただきます。（※原稿料をお支払いします）
- ② 法人会員様の投稿により、災害時に緊急対応や復旧に携わった実績を 「災害奮闘記」 のコーナー（今後新設予定）でご紹介させていただきます。（※原稿料をお支払いします）
- ③ 河川関係の優良工事表彰や優良業務表彰を受賞した法人会員様をご紹介します。

【当協会のホームページ等で】

- ④ 国土交通省の記者発表資料等から、河川行政に関する最新情報（政策、個別プロジェクトの情報、発注予定、災害状況等）を集約・整理した会員専用サイトをご覧ください。
- ⑤ 法人会員様が国土交通省のホームページ等で紹介された場合に、その情報を当協会のFACEBOOK等でご紹介させていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。（年会費3万円からご入会いただけます）

東京都千代田区麹町2-6-5 麹町E・C・Kビル (TEL 03-3238-9771)

公益社団法人 日本河川協会 (問い合わせ先：事務局長 萩原)

hagiwara@japanriver.or.jp

日 本 河 川 協 会 役 員 名 簿

(2018/1/1現在)

区 分	氏 名	役 職	備 考
会 長	虫明 功臣	東京大学名誉教授	
副会長	松田 芳夫	一般社団法人 全日本建設技術協会技術顧問	元・建設省河川局長
副会長	高橋 健文	元 公益財団法人 建設業適正取引推進機構理事長	元・内閣府政策統括官（防災）
常任理事	青山 俊樹	一般財団法人 建設業技術者センター理事長	元・国土交通事務次官
常任理事	浅枝 隆	埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授	
常任理事	安中 徳二	元 公益社団法人日本下水道協会 理事長	元・建設省都市局下水道部長
常任理事	大島 一哉	株式会社 建設技術研究所相談役	
常任理事	岡本 正男	一般社団法人 全国治水砂防協会理事長	元・国土交通省河川局砂防部長
常任理事	清治 真人	株式会社 東京建設コンサルタント相談役	元・国土交通省技監
常任理事	田代 民治	鹿島建設株式会社 代表取締役副社長執行役員	
常任理事	中村 一之	埼玉県県土整備部副部長	
理 事	久住 時男	新潟県見附市長	
〃	小室 広佐子	東京国際大学副学長・教授	
〃	佐藤 年緒	環境・科学ジャーナリスト	
〃	七戸 克彦	九州大学大学院法学研究院教授	
〃	白村 暁	愛知県建設部河川課主幹	
〃	棚橋 元	新潟県土木部河川管理課長	
〃	中村 太士	北海道大学大学院農学研究院森林生態系管理学研究室教授	
〃	箱田 伸洋	広島県土木建築局河川課長	
〃	三井 元子	特定非常利活動法人 あらかわ学会副理事長・事務局長	
〃	美馬 一浩	大阪府都市整備部河川室河川整備課長	
〃	茂泉 博史	宮城県土木部河川課長	
〃	霊山 智彦	ジャーナリスト	
専務理事	青山 俊行	公益社団法人 日本河川協会	元・国土交通省北海道局長
常務理事	萩原 寿夫	公益社団法人 日本河川協会 事務局長	

イメージ(代表的な情報を抜粋したものです)

このコーナーでは、国土交通省の各機関等から個別に発信されている河川行政に関する情報（政策・制度・予算、個別河川の情報、発注見通し、災害状況等）を集約・選択・分類してお届けします。

【政策・制度・予算などに関する情報】

年月日	発信主体	タイトル	補足・解説
H30.2	国土交通本省	平成29年度 水管理・国土保全局補正予算配分概要（平成30年2月）	今年度補正予算の基本的な考え方と地域別の概要です。「防災・減災」が大きな柱です。
H30.2	国土交通本省	水管理・国土保全局 事業実施箇所（補正予算）	河川関係事業における個別箇所の配分額です。
H30.2.1	東北地方整備局	東北地方整備局関係 平成29年度補正予算概要(PDF:4428KB)	
H30.2.1	関東地方整備局	平成29年度関東地方整備局関係補正予算の概要について	
H30.1	国土交通本省	平成30年度 水管理・国土保全局関係予算概要（平成30年1月）	“防災意識社会”と“水意識社会”への新たな展開が柱になっています。

【個別河川のプロジェクト・計画に関する情報】

年月日	発信主体	タイトル	補足・解説
H30.1.31	国土交通本省	水戸市（桜川流域）、名古屋市（堀川流域）の浸水対策を「100mm/h安心プラン」に登録（2018年1月31日）	河川事業＋下水道事業で、ハード＋ソフトで、防災・減災を図る取り組みです。
H30.1.24	北陸地方整備局	千曲川国分地区築堤事業起工式を開催します	長野県上田市の市街地を守る平成32年度完成予定のプロジェクトです。
H30.1.10	東北地方整備局	～国及び秋田県による雄物川緊急治水対策～平成29年7月・8月の記録的な豪雨で大きな被害を受けた雄物川中下流部において、国、秋田県が連携してハード・ソフトが一体となった緊急的な治水対策を実施します。(PDF:2219KB)	再度災害の防止に向けた集中投資です。ただし、他の河川の「予防」のための投資を減らさないためには予算全体の伸びが必要です。

【発注見通しなどに関する情報】

年月日	発信主体	タイトル	補足・解説
H30.2.2	東北地方整備局	東北地方整備局 平成29年度 補正予算 発注見通しについて	
H30.2.2	北陸地方整備局	平成29年度補正予算（ゼロ国債含む）等の発注見通しの公表についてのお知らせ	
H30.1.31	関東地方整備局	「発注見通し」の統合を関東地整管内全域で展開	国、県などの各発注主体の情報を一元化する取組みです。なお、この取組みは関東地方整備局の「地域インフラサポートプラン」に基づくものです。

【その他建設産業に関わる情報】

年月日	発信主体	タイトル	補足・解説
H30.2.1	中国地方整備局	災害応急対策活動等に関する協定業者を募集します。	鳥取河川国道事務所の取組みです。
H30.2.1	関東地方整備局	「災害時における河川災害応急復旧業務」に関する協定会社を公募します。	下館河川事務所の取組みです。協定締結会社は「総合評価落札方式」における技術評価点の「地域貢献度」で評価されます。
H30.1.15	関東地方整備局	建設技術展示館の第14期展示技術等を決定しました	今回は「生産性向上」に力点が置かれているように見受けられます。河川工事の技術に限定したものではありませんが、参考になるのではないのでしょうか。

【災害状況に関する情報】

[草津白根山の噴火に関して土砂災害専門家を派遣します\(2018年1月23日\)](#)

[草津白根山の噴火に関して土砂災害専門家を派遣します](#)

日本河川協会 FACEBOOK での三種正会員紹介事例



いいね! フォロー中▼ 保存済み▼ ...

コメントする...

 **公益社団法人 日本河川協会**
1月9日 19:31 · 公開

★建設業者は「災害時の地域の守り神」です。
(H30.01.05 関東地方整備局発表)
「災害時の基礎的事業継続力」新たに35社を認定 ～災害対応業務の円滑な実施に向けて～
http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000532.html

なお、当河川協会会員では下記の企業が認定を受けています。

【新規】 (なし)
【継続】

- ・ (株) 不動テトラ
- ・ 日本国土開発 (株)
- ・ (株) 奥村組 東京支店
- ・ 鉄建建設 (株)
- ・ 株木建設 (株)
- ・ (株) 本間組 東京支店

「災害時の基礎的事業継続力」新たに35社を認定 ～災害対応業務の円滑な実施に向けて～ | 記者発表 | 国土交通省 関東地方整備局
国土交通省 関東地方整備局の記者発表のページです。
KTR.MLIT.GO.JP

いいね! コメントする シェアする



公益社団法人日本河川協会について

【特徴】

- ・昭和15年(1940年)設立の社団法人(平成23年に公益社団法人として認定)
- ・河川に対する社会的な関心を高める活動を実施
- ・主な収入源は、会費(会員は地方公共団体、個人、法人の3種類)、寄付金など

【主な活動】

- ・河川行政、歴史文化等に関わる**情報の発信・データベース化**(月刊誌「河川」の発行など)
- ・**調査研究活動**(河川インフラ評価技術、河川行政史など)
- ・セミナー、研修会の開催による**人材育成活動**
- ・コンクールの実施・支援等による**顕彰活動**(河川功労者、日本水大賞(名誉総裁:秋篠宮殿下)など)
- ・会員活動、河川関係**諸団体への支援・協力活動**

【課題と求められる取り組み】

課題①:会員数の減少(ピーク時と比較して個人会員は半分に、法人会員は1/3に)

→ 会員メリットの向上に向けた取り組み(特に個人会員、法人会員)

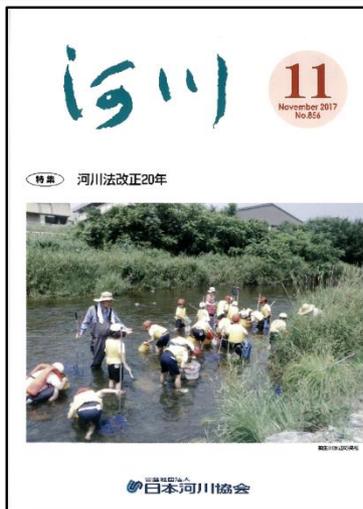
課題②:発信情報の限定性

→ 行政・文化情報だけではなく、「作り手・守り手」の立場で河川を支える方々(※)の情報を発信 → **社会的評価の向上**

(※ 建設会社、コンサルタント、測量会社、地質会社等、及び技術者など)

河川に関わる情報の発信・データベース化

月刊誌「河川」
2017年11月号



協会HPの
検索コーナー

雑誌「河川」 & 「水利と土木」・「治水雑誌」 記事検索 < Index Search Engine >

The river seek on the web

■ 目次検索は、昭和3年発行『水利と土木』～『河川』平成29年11月号までが可能です

※『治水雑誌』（明治23年～27年発行・全12冊）も検索及び記事閲覧ができます。

◆現在、記事の本文閲覧ができるのは次のとおりです◆

『治水雑誌』：明治23年～明治27年
『水利と土木』：昭和3年～昭和16年
『河川』：昭和17年～平成29年5月

閲覧できるのは当協会の二種正会員（個人会員）様のみです。
※ 閲覧をお急ぎの方は、個人会員入会申込書をご送付いただきましたら、先に閲覧用のユーザー名（会員番号）、パスワードをお知らせすることも可能です。ご利用の前には、必ず「ご利用上の注意」をお読みください。

月刊誌「河川」を軸にした 長年にわたる情報の一元的ストックは貴重な財産

過去記事検索性
1991年10月号

【特集・第8次治水事業五箇年計画】

第8次治水事業五箇年計画の概要

建設省河川局河川計画課

1. 河川審議会の提言

第7次治水事業五箇年計画は、平成3年度をもって、総投資額12.5兆円に対して、約88%の累積達成率で、終了する見込みである。これにともない、今年度から、平成4年度を初年度とする第8次治水事業五箇年計画の策定作業が始まった。

策定作業に当たり、新五箇年が高い貯蓄率に支えられ、後世に良質な社会資本ストックが残せる貴重な期間に位置すること、また、近年の社会経済動向や住民ニーズに対応した新たな治水事業を今後展開する必要があることから、本年5月23日に、建設大臣から河川審議会に「今後の河川整備は、いかにあるべきか」を諮問した。

これを受けて、河川審議会は、精力的な調査・審議を行い、各申に先がけて、今後の河川整備の基本的方向について、8月7日に建設大臣に提言した。

提言は、21世紀までの残り少ない期間に、安全で美しい国土を築くべきであるとしうえて、大きく以下の3本の施策の展開を求めている。

1. 安全な社会基盤の形成
2. 水と緑豊かな生活環境の創造
3. 超過洪水、異常高水等に備える危機管理施策の展開

2. 整備の目標

第8次治水事業五箇年計画は、この提言に添った内容で、関係各機関に総投資額20兆円を要望し、時間割50年相当の降雨に対する整備率を平成3年度末45%から五箇年間に53%に引き上げる。主要な整備の目標を、以下に述べる。

1) 安全な社会基盤の形成

大河川及び中小河川の氾濫区域37,900km²について、治水施設の整備を進め、当面の目標である時間割50年相当の降雨に対する整備率を平成3年度末45%から五箇年間に53%に引き上げる。大河川については、21世紀初頭には、30年から

- 18 -

(政策的事項の背景・内容等の情報を蓄積)

過去記事検索性
2001年2月号

河川 2001-2月号

報告

「阿武隈川平成の大改修」の試み

New disaster restoration work : Heisei Abukuma River's largescaled Improvement Project

おにし わたる
大西 亘
Wataru Osishi

1. はじめに

平成10年6月及び9月洪水を契機として、福島工事事務所では「阿武隈川平成の大改修」に着手し、本年度一部施設・区間を除いて概ね完成の運びとなった。平成12年12月9日には、関係者多数の参加により開式典を開催したところである。この度の「阿武隈川平成の大改修」では、強い豪雨での治水対策や単なる災害復旧事業にとどまらない総合的な河川整備を行うことを全体方針に掲げるなど、様々な試みを実現してきた。そこで、本稿では、「阿武隈川平成の大改修」が何を目標とし、どのように進められたかを中心に報告することとする。

2. 平成10年洪水の被害状況

平成10年、阿武隈川流域では、大きな被害をもたらした二度の洪水に見舞われた。8月末には、東北から関東地方にかけて停滞した前線に向かって、台風4号から流れ込んだ暖かく湿った空気により前線活動が活発になり、長期間にわたる大雨となった。特に、阿武隈川の上流域にあたる福島県南部から栃木県北部を中心に集中的な豪雨となり、阿武隈川のすべての水位観測所で警戒水位を大きく越えた。中には、最大最大の洪水である昭和60年8月洪水と同規模の最大水位を記録する観測所もあった。浸水面積は、阿武隈川上流直轄管理区間沿川で約1,850ヘクタール。福島県内における死者傷者30余名、全半壊家屋122戸など甚大な被害を受けた。長期間にわたる断続的な豪雨により、水位の高い状態が約6日継続し、堤防の洗掘、漏水等が甚だしく発生した。

また、9月16日未明からは、台風5号の影響により、特に、支川荒川流域で強い降雨があり、急流河川である荒川にわたって破壊し（写真-1）、浸水被害が発生した。

写真-1 荒川日の食糧上流右岸破壊状況（福島市）

●国土交通省福島工事事務所長
Director of Fukushima Work Office, MLIT

(個別プロジェクト情報も蓄積)

調査研究活動や研修会等の実施

技術検討を支援する情報をストック

調査研究活動(協会HPより)

地球温暖化適応策分野の資料集

日本河川協会で収集した
最近の日欧米の文献を掲載しています。

New (11/9資料を追加しました)

河川・水資源 日英用語集

約59,000対の日英用語が集積されています。

河川・水資源関連分野の英文資料集

日本の河川に関する英文パンフレット等を
収集、編集したものです。



雑誌「河川」& 「水利と土木」目次一覧

New 目次の一覧表です。

雑誌「河川」& 「水利と土木」・「治水雑誌」記事検索

New 平成29年11月号までの目次の検索ができます。
二種正会員(個人会員)様は、平成29年5月号までの
本文記事が閲覧できます。

建設企業の防災貢献

災害対策功労者表彰などを受けた
建設企業の防災貢献内容のご紹介です。

幅広い視点を持つ人材を育成

研修会の例(河川文化を語る会)



河川文化を語る会

河川文化(川と人とのかかわり)の様々なテーマについてゲストスピーカーの話
を聞き、意見交換をする場を設けました。川や水に関するテーマを幅広く取り上げ
ています。

毎回、たくさんの方にご参加いただき、好評を得ています。
どなたでもご参加いただけます。お気軽にお申し込みください。
皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

これまでに開催した講演および開催予定の講演一覧です。
第1回~185回までの内容は講演集としてまとめています。(一部未収録)
講演内容(講演集の目次)は、下記収録講演集からリンクしています。

開催回	講演テーマ	講師 (敬称略)	開催日	開催地	レジュ メ等
終了 第195回	【水の都・大阪の再生のために】 新作能『水の輪』 ~こどもたちと一緒にユネスコ世界無形遺産の 能楽により「水を大切にしたい気持ち」で 世界を一つにつな げる~	山本 佳誌枝	H29/11/21	大阪市	—
終了 第194回	利根川東遷の謎 今更の疑問、なぜ?—	竹村 公太郎	H29/10/30	さいたま市	—
終了 第193回	船上講演会「川から見る東京」 ●土木・河川工学コース ●江戸・東京歴史コース	松田 芳夫 宮 加奈子	H29/9/5	東京	—
終了 第192回	恵みの水めぐる川 躍動する命を写す	内山 りゅう	H29/3/20	名古屋市	レジュ メ
終了 第191回	未来への記憶を呼び覚ます・・・ 文画人・堤橋次郎が記録した 大正・昭和の水都・大阪の眺めから	弘本 由香里	H28/11/30	大阪市	レジュ メ
終了 第190回	荒川西遷以後の荒川中流部の洪水氾濫と 遊離特性の変化 一川島町を例として—	田中 規夫	H28/10/26	さいたま市	レジュ メ
終了 第189回	立山曇茶羅に表徴された常願寺川水系の水神信仰	福江 充	H28/7/14	富山市	レジュ メ

顕彰活動の例(日本水大賞、ストックホルム青少年水大賞)

当協会は第1回から選考・表彰の事務局を担当



第19回 日本水大賞 2017日本ストックホルム青少年水大賞 表彰式・受賞活動発表会

2017年7月11日
日本科学未来館



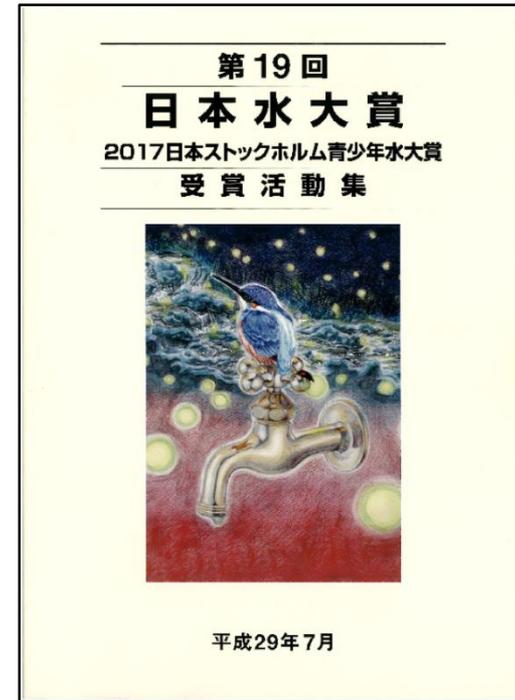
主催者挨拶 日本水大賞委員会 毛利委員長



主催者挨拶 国土交通省 石井国土交通大臣



名誉総裁 秋篠宮殿下のお言葉



第19回日本水大賞

創作劇「とこしま堰物語」の講演活動
(久留米市立金島小学校)

2017日本ストックホルム青少年水大賞

リン酸マグネシウムアンモニウムを活用した革新的な堤防維持管理技術の開発
(京都府立桂高等学校)